

【今週の注目疾患】

【カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症】

2018年は第13週までに県内医療機関から16例のカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(carbapenem-resistant *Enterobacteriaceae*; CRE)の届出を認めている。2014年9月19日からCREは全数把握対象疾患となり、これまでの届出状況は2014年10例、2015年68例、2016年73例、2017年77例となっている。2017年3月28日には厚生労働省よりCRE感染症等に係る試験検査の実施について通知され、分離株の耐性機序に関する検査が実施されるようになってきている。

サーベイランス開始以降、2018年第13週までに届け出られた全244例についてまとめると、性別は男性177例(72.5%)、女性67例(27.5%)となっており、全体の年齢中央値は73.5歳(範囲13～102歳、四分位範囲 14.25)であった。症状(重複あり)は、尿路感染症56例、肺炎61例、腹膜炎23例、髄膜炎1例、菌血症29例、敗血症27例、胆嚢炎10例、胆管炎20例となっており、その他として創部感染、蜂窩織炎や肛門周囲膿瘍などの記載があった。原因として分離された主な菌種は*Enterobacter aerogenes*が101例(41.4%)と最も多く、次いで*Enterobacter cloacae* 85例(34.8%)、*Klebsiella pneumoniae* 12例(4.9%)、*Escherichia coli* 10例(4.1%)となっている。CREであることの確認は、イミペネムとセフメタゾールによるものが133例(54.5%)、メロペネムによるものが37例(15.2%)、両方による確認が68例(27.9%)、未記入等6例(2.5%)であった。分離菌種による結果は表のとおりである。

表：2014～2018年第13週に県内医療機関から届け出られたカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の菌種別届出状況
n=226、菌種不明の18例除く

菌種	届出数	症状*									確認に用いた薬剤**		
		尿路感染症	肺炎	腹膜炎	髄膜炎	菌血症	敗血症	胆嚢炎	胆管炎	①イミペネムとセフメタゾール	②メロペネム	①、②両方	
<i>Enterobacter</i>													
<i>E. aerogenes</i>	101	16 (15.8)	25 (24.8)	12 (11.9)	1 (1.0)	7 (6.9)	14 (13.7)	5 (5.0)	12 (11.9)	76 (75.2)	6 (5.9)	19 (18.8)	
<i>E. cloacae</i>	85	20 (23.5)	26 (30.6)	7 (8.2)	0 (0)	15 (17.6)	6 (7.1)	3 (3.5)	5 (5.9)	35 (41.2)	19 (22.4)	28 (32.9)	
<i>E. asburiae</i>	1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (100)	1 (100)	0 (0)	0 (0)	
<i>Klebsiella</i>													
<i>K. pneumoniae</i>	12	3 (25.0)	1 (8.3)	1 (8.3)	0 (0)	2 (16.7)	1 (8.3)	0 (0)	1 (8.3)	2 (16.7)	1 (8.3)	9 (75.0)	
<i>Escherichia</i>													
<i>E. coli</i>	10	4 (40.0)	1 (10.0)	1 (10.0)	0 (0)	2 (20.0)	2 (20.0)	0 (0)	0 (0)	2 (20.0)	5 (50.0)	3 (30.0)	
<i>Citrobacter</i>													
<i>C. freundii</i>	7	3 (42.9)	2 (28.6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (14.3)	0 (0)	0 (0)	1 (14.3)	2 (28.6)	4 (57.1)	
<i>C. braakii</i>	1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (100)	0 (0)	0 (0)	
<i>C. youngae</i>	1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (100)	0 (0)	0 (0)	
<i>Serratia</i>													
<i>S. marcescens</i>	4	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (75.0)	1 (25.0)	0 (0)	
<i>Providencia</i>													
<i>P. rettgeri</i>	2	2 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (100)	0 (0)	0 (0)	
<i>Morganella</i>													
<i>M. morganii</i>	1	1 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (100)	0 (0)	0 (0)	
<i>Proteus</i>													
<i>P. mirabilis</i>	1	1 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	

* 表中以外の症状による届出有り

表中カッコ内は%

** 未記載の届出有り

2017年4月以降に届け出られた症例で、千葉県衛生研究所に搬入され耐性機序に関する検査が実施された52株について、検査の結果カルバペネマーゼ産生菌(carbapenemase-producing *Enterobacteriaceae*; CPE)とされたのは11株であった。い

ずれもIMP型メタロ-β-ラクタマーゼ(MBL)遺伝子を有していた。IMP型MBL遺伝子を持つ11株は、*E. cloacae*が8株、*C. freundii*が2株、*K. pneumoniae*が1株であった。患者発生動向調査に加え、分離株の耐性機序の検査を引き続き実施し、県内におけるCREの動向をサーベイランスしていくことが重要である。